データで見る理系の就職活動

理系の先輩たちはどのように就職活動を進め、どんな会社を選んだのか…理系学生の場合、「周囲に就職活動をしている先輩が少なく、ロールモデルがあまりない」という方も珍しくなく、就職活動について知る機会が少ないといえます。このページでは、2014年卒業予定で就職活動に取り組んだ理系の先輩たちのデータを集計しました。理系の先輩たちがどんな就職活動をしたのか、データから読み解いてみましょう。

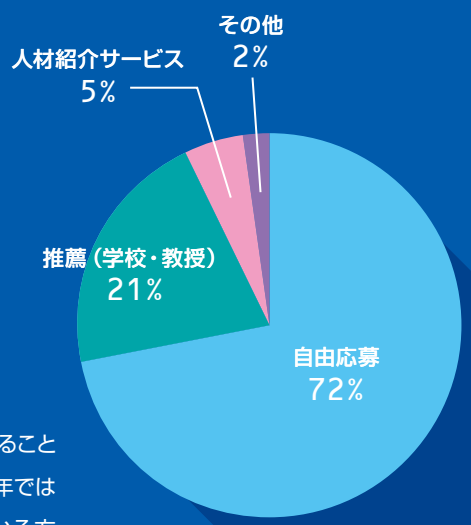
調査対象　理系ナビ2014会員
調査期間　2013年5月～7月
調査方法　メールによる調査
回答数　250名

※図表の小数点はいずれも四捨五入

1 就職活動を始めた時期

12月が就職活動の本格的なスタートというものの、サマーインターンシップのタイミングから活動を始めている先輩は少なくありません。7月までに約7割の先輩が何らかのアクションを起こしています。

2 応募方法

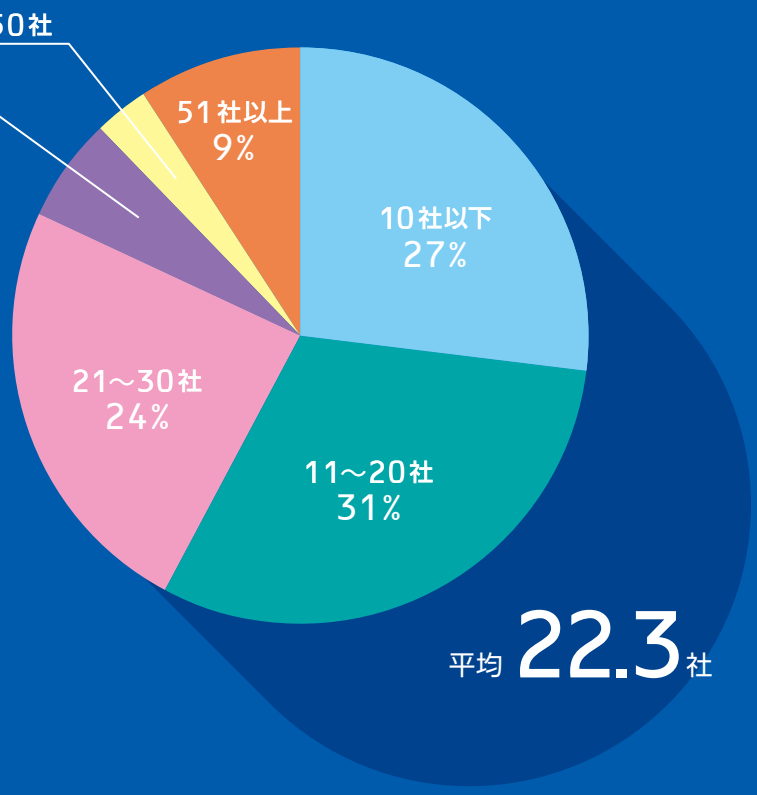


かつては推薦を利用して就職することが多かった理系学生ですが、近年では自由応募で就職活動を進めている方が多数派となっています。金融やコンサルといった専攻分野以外の業界だけでなく、メーカーなどでも自由応募を中心に活動している方は珍しくありません。

エントリーシート提出数

3

理系は厳選してエントリーしている学生が多く、多数派は「11～20社」です。理系は推薦応募を中心に応募企業を厳選して活動している方も少なくないですが、自由応募をメインに活動している方やいわゆる文系職種を志望している方のエントリー数は比較的多めとなっています。

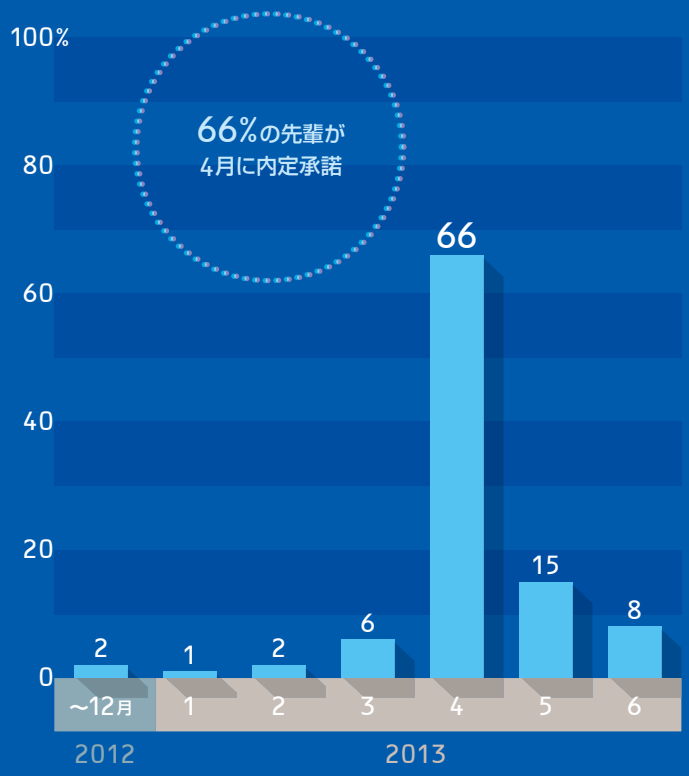


内定承諾時期

4

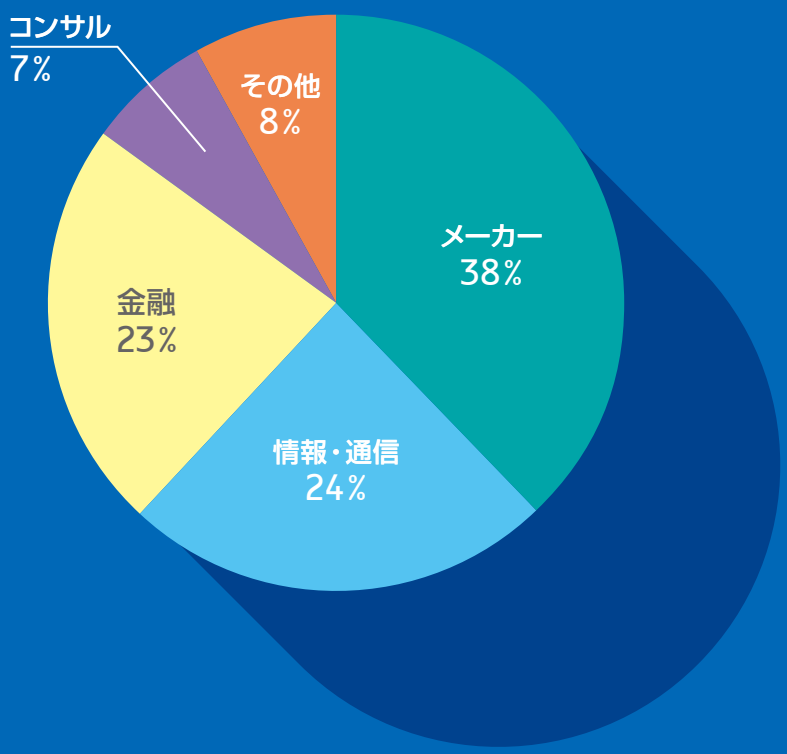
倫理憲章※に従い、大手企業を中心に4月のタイミングで一斉に内定が出ています。また、今回の調査タイミングでは集計できませんでしたが、夏から秋にかけて内定出しをする企業も少なくありません。

※「新規学卒者の採用・選考に関する倫理憲章」日本経団連が中心になって定めた新卒者の採用活動に関するガイドライン



〈業界別〉内定承諾企業 5

内定を承諾した企業の業界については約４割をメーカーが占めました。それに続いたのがIT、金融でいずれも約２割です。さらに内訳の業態を見るとメーカーでは総合電機、自動車、素材などの技術系職種、IT業界ではSIerのSE。金融系では数理能力を活かせるアクチュアリーなど金融専門職への内定が多く見られます。



6 内定承諾の決め手

1　業務内容

「事業領域が幅広く、様々な仕事に挑戦できると考えたから」
「海外で活躍できる仕事がしたかった」
「希望する部門・職種に確実に配属してもらえるかどうか」

2　社員の魅力

「社員の方がどれだけ仕事に面白さや魅力を感じているかで決めた」
「社員や会社の雰囲気と自分がマッチするかどうかを重視した」

3　規模･影響力

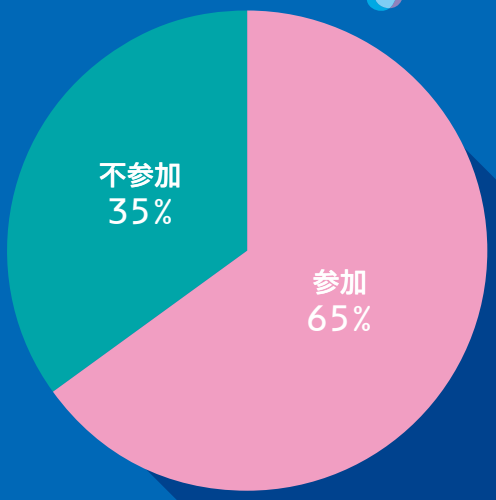
「会社の規模と安定性、財務基盤などから総合的に判断」
「長期的なキャリアを考えた際、業界トップの企業ならより成長できる環境があると感じたので」

4　成長性

5　社　風

内定承諾の最終的な決め手で１位となったのは「業務内容」。「この仕事をしたい!」という想いが決め手となった方が多いようです。業務内容を選んだ方のコメントを見ると、「職種」だけでなく、「グローバルに活躍できる」など自身が望むワークスタイルを叶えられる企業であることが決め手となっているようです。

サマーインターンシップ参加率 7



自分がどの業界に向いているか見極めるため、異なる業界のインターンに参加した

志望業界は決まっていたが、社風や業態ごとの違いを知りたいと思い、複数のインターンに参加した

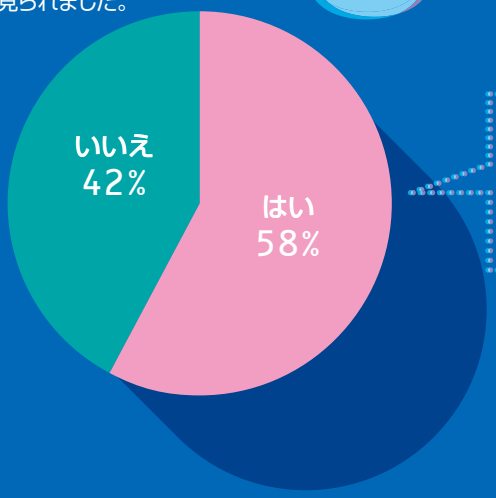
志望業界の仕事内容を詳しく知りたかったので

多忙な理系学生ですが、スケジュールの合間を縫って65%がインターンシップに参加しています。参加の目的で一番多かったのは「業務理解を深めるため」でした。
ちなみに、サマーインターンシップ参加者のうち26%が参加した企業から内定を獲得しています。

専攻・研究分野を活かせる仕事を希望したか 8

大学での専門性を活かせる仕事に就きたいと考えていた理系学生は58%。Noと答えた方は「専攻にとらわれず幅広い仕事を見てみたかった」「自分の専攻を仕事にするのは難しいと思ったから」といった意見が多く見られました。

大学での研究とは異なる業界で働くことで、自らの能力の幅を広げることができると思ったので



研究室での研究を通じてより研究が好きになったため、社会に出ても研究に携わりたいと思ったので